

区民と創る台東区の男女平等参画のための情報誌

はばたき21

通信

2020・8

No.40

台東区男女平等推進行動計画
「はばたきプラン21」の基本理念

多様性を認め合い、誰もが自分らしく
生きるための男女平等社会の実現

【基本目標1】

あらゆる分野
への男女平等
参画の推進

【基本目標2】

職業生活に
おける女性の
活躍推進

【基本目標3】

誰もが安心して
暮らせる
環境の整備

特集

みんなで創る 男女平等参画社会
「はばたきプラン21」がめざすこと

- 意思決定過程への男女平等参画の推進
- ワーク・ライフ・バランスの実現
- 配偶者等からの暴力の防止及び被害者保護
- スタートしました！

「台東区男女平等推進行動計画 はばたきプラン21」

- ◆「はばたき21」情報コーナーおすすめ図書案内
- ◆たいとうのキラッとさん紹介
- ◆「令和2年度男女平等推進フォーラム」開催中止のお知らせ



みんなで創る 男女平等参画社会
「はばたきプラン21」がめざすこと

「はばたきプラン21」がめざすこと

台東区では、今年3月、男女平等参画社会の実現をめざして、「台東区男女平等推進行動計画 はばたきプラン21」を策定しました。そこで今回の特集では、基本目標にも含まれる3つの課題を取り上げ、それらを取り巻く社会の現状や背景を報告します。

「コロナ禍により、ひとり一人がそれぞれの困難を抱え、また、社会が大きく変わろうとしている今こそ、多様性を認め合い、誰もが自分らしく生きるための男女平等社会について、一緒に考えてみませんか。」

●少ない！ 女性の参画

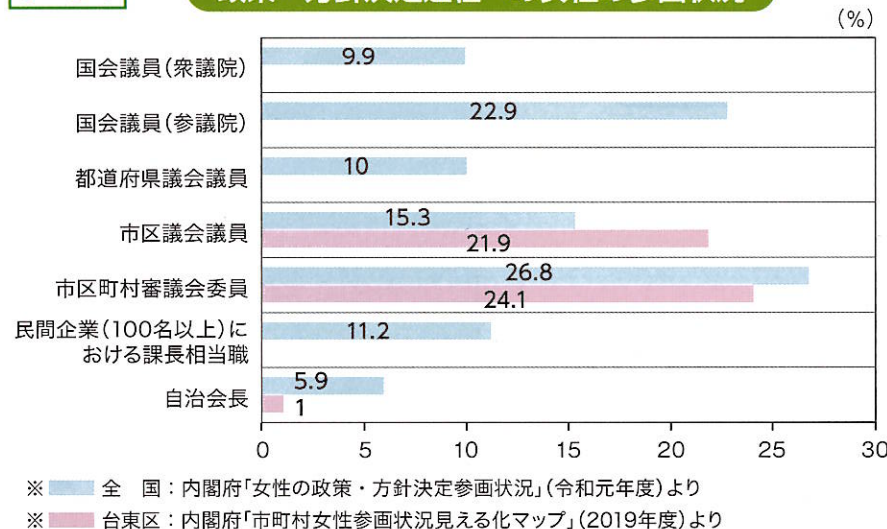
議会や重要な会議などの映像を見て、「女性が少ない…」と感じたことはありませんか。

社会や生活の様々な場面に存在するジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）に基づく格差や不平等は、世界中で問題視されています。こうした状況を解消するために重要とされるのが、あらゆる分野の意思決定過程への女性の参画です。

これまで国は、「社会のあらゆる分野において、2020年までに指導的地位に女性が占める割合を少なくとも30%程度とする目標」を掲げ、「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」を制定するなど、様々な政策・取組を展開してきました。しかし、政策・方針決定過程への女性の参画状況をみると、依然として低い水準が続いています。（データ）

データ1

政策・方針決定過程への女性の参画状況



日本のジェンダー・ギャップ指数

121位/153か国

データ2

上位国及び主な国の順位

1	アイスランド	53	米国
2	ノルウェー	76	イタリア
3	フィンランド	81	ロシア
10	ドイツ	106	中国
15	フランス	108	韓国
19	カナダ	121	日本
21	英国	153	イエメン

日本のスコア

分野	スコア(順位)	昨年のスコア(順位)
政治	0.049(144位)	0.081(125位)
経済	0.598(115位)	0.595(117位)
教育	0.983(91位)	0.994(65位)
健康	0.979(40位)	0.979(41位)
総合	0.652(121位)	0.662(110位) ※149か国

世界経済フォーラムが2019年12月に発表した各国における男女格差をはかるジェンダー・ギャップ指数において

- ◆日本の順位は対象153か国中121位と過去最低
- ◆主要7か国(G7)では最下位

ジェンダー・ギャップ指数(GGI)とは

毎年、世界経済フォーラムが公表している「グローバル・ジェンダー・ギャップ報告書」の中で発表されている男女格差を表す指数。政治・経済・教育・健康の4分野のデータから作成され、0が完全不平等、1が完全平等を示す。

政治分野：国会議員に占める比率、閣僚の比率、最近50年の行政の長の在任年数
経済分野：労働力率、同じ仕事の賃金の同索性、所得の推計値、管理職に占める比率、専門職に占める比率
教育分野：識字率、初等・中等・高等教育の各在学率
保健分野：新生児の男女比率、健康寿命

●女性の参画が進まないのはなぜ？

世界経済フォーラムが2019年12月に発表したジェンダー・ギャップ指数でも明らかのように、諸外国に比べ、日本が特に進まないとされるのが、政治分野への女性の進出です。（データ）

女性議員が少ないのは、候補者が少ないからであり、そこには、女性に重くのしかかる家庭責任、「政治は男の仕事」という根深い意識、家族からの支援が受けにくいといった要因があげられます。

企業においても、女性が管理職を望まない傾向の背景には、女性が背負う家事・育児等の負担の重さや男性中心型の職場環境などがあるといわれており、固定的な性別役割分担については、社会・地域活動においても、その根深さがうかがえます。

●女性の参画の重要性

2001年に日本で成立した「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」は、女性議員が超党派で結束し、その後の法改正に尽力したことで知られています。女性の人権や女性にかかわる様々な状況・経験から生まれる問題意識。そうした女性議員の視点、政策の刷新に貢献すると考えられています。

また、経済分野や地域社会における女性の参画の拡大が、それぞれの現場に多様な価値観や創意工夫をもたらし、企業価値の向上や、地域の課題解決・活性化につながると期待されています。

多様な意思が政治や社会の政策・方針決定に公平・公正に反映される男女平等参画社会を実現するためには、今後さらなる取組が必要です。

「はばたきプラン21」における取組の方向性

- ① 審議会等への男女平等参画の推進
- ② 区民が立案・参画する機会の増加
- ③ 区民の社会・地域活動への参加の促進

ここでも重要な女性の参画

新型コロナウイルス感染症への対応・回復における国際的な取組

国連は、新型コロナウイルス感染症への対策が必要な効果を上げるためには、国による全ての応急対応において、女性・女兒を中心に据えることが極めて重要であるとし、それにより長年にわたる不平等を是正するだけでなく、より公正で強靱な世界を作ることにもなり、男性及び男児の利益にもなると指摘しています。

そして、グテーレス国連事務総長も、女性・女兒を新型コロナウイルス感染症からの回復に向けた取組の中心に据えるよう各国政府に対して強く要請し、そのためには意思決定過程への女性の参画が重要であると強調しました。

防災・復興における対策

同じ災害を経験しても、災害から受ける影響や必要な支援が女性と男性では異なります。過去の災害では、女性の視点が欠如していたために、避難所運営や被災者への物資の提供に関して様々な問題が生じたり、女性に対する性的暴力があったという事案も報告されています。

こうした問題を解決するために、地方防災会議の委員や自治会長及び自治会役員に占める女性割合を高める、自主防災組織や避難所などの現場における女性の参画を拡大する、そして、女性の視点の重要性や女性が主体的な担い手であるということを、男性にも意識してもらおうといったことなどが求められています。

防災への女性の参画状況

- 市町村防災会議委員(全国)8.7% (台東区)8.3%
- 消防団員(全国)3.2%
- ※全 国：内閣府「女性の政策・方針決定参画状況」(令和元年度)より
台東区：内閣府「市町村女性参画状況見える化マップ」(2019年度)より

暴力には、様々な形があります



● **コロナ禍とDV**

配偶者等からの暴力(ドメスティック・バイオレンス。以下DV)は、人権を著しく侵害する行為であり、いかなる状況においてもゆるされるものではありません。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響によるDVの増加や深刻化が、日本をはじめ世界各国で懸念されています。

ここ数年、日本全国の配偶者暴力相談支援センターへの相談件数は、年間10万件を超える高水準で推移していますが、2020年4月の相談件数をみると、昨年4月の約3割の増加となりました。

コロナ禍がDVに結び付く背景には、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出制限や経済的ダメージがあります。そこから生じるイライラや不安・焦りが、殴る・蹴るといった身体的な暴力だけではなく、精神的・経済的なDVとして家族に向けられていきます。そうした状況になっても、加害者が家にいることが増えたために、被害者は相談することも逃げてしまうのです。

こうしたDVの増加・深刻化の懸念に対して、国は「DV相談+（プラス）」を開発するなど、相談・支援体制の維持・拡充を進めています。

● **DV根絶をめざして**

「逃げたら殺されるかもしれない」という強い恐怖、経済的な問題や子供への影響など、複雑な事情を抱え、孤立しがちな被害者のためには、配偶者暴力相談支援センターを中心とした関係機関との連携体制を強化することにより、被害者の早期発見や被害者の保護から生活再建までの切れ目ない支援が大切です。また、DV防止と児童虐待防止対策を連携させた取組の強化が求められています。さらに、恋人や交際相手に対する暴力(デートDV)についても、

● **DVと児童虐待**

近年、痛ましい事件により大きな問題とされるのが、DVと児童虐待の関係です。

DVと児童虐待は同じ家庭で同時に発生している場合があります。子供への殴る・蹴るといった身体的な虐待だけではなく、子供のいる前で夫婦間で暴力を振るうこと(面前DV)も、子供への心理的虐待になります。また、加害者に対する恐怖心や、継続してDV被害を受けることで感情がマヒしてしまったり被害者が、子供に対する暴力を制止できなかったり、加害者に言われるまま暴力に加担してしまう場合もあるのです。

**たいとうパープル
ほっとダイヤル**

〈DV相談専用電話〉

TEL 03-3847-3611
月曜日～土曜日
(日曜日・休館日を除く)
9:00～17:00

ひとりでも悩まないで!

**内閣府
DV相談+（プラス）**

- 電話相談(24時間受付)
0120-279-889
- メール(24時間受付)
- チャット
(受付 12:00～22:00)
※<https://soudanplus.jp/>

「はばたきプラン21」における取組の方向性

- ① DV相談業務の充実と関係機関との連携
- ② DV被害者の安全の確保と自立支援
- ③ 配偶者等からの暴力を防止するための取組

● **ワーク・ライフ・バランスとは**

ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)は、人々が長時間労働や仕事中心といった働き方を見直すことで、仕事においてもいきいきと働けるような責任を果たし、また、子育てや介護、地域活動、自己啓発など仕事以外の生活においても、ライフステージに応じて多様な生き方や活動が選択・実現できるようにしていくというものです。

ワーク・ライフ・バランスが実現すると、私生活の充実が仕事にも良い影響を及ぼし、企業にとっても、社員の意欲や業績の向上、女性の活躍推進といったメリットが想定されます。

● **調査から浮かぶ希望と現実の乖離**

ワーク・ライフ・バランスの実現に向けては、これまでも国が法律を含む両立支援制度等の整備を促進するなど、官民一体となった様々な取組を実施してきました。

しかし、内閣府が公表した「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)レポート2019」によるワーク・ライフ・バランスの希

望と実際の一致状況をみると、男女問わず仕事を優先することで、「家庭生活を優先」または「仕事と家庭生活をともに優先」という希望を実現できていないこと。また、女性に家事・育児等の負担が偏っている、女性がライフイベントを機に離職を選択しているといった状況が明らかにありました。こうした傾向は、「6歳未満の子供を持つ夫婦の1日あたり家事・育児関連時間」や「育児休業取得率」といった調査結果にもあらわれています。

● **希望を実現するために**

そうした状況を踏まえ、女性がキャリアを諦めずに働き続けられ

● 6歳未満の子供を持つ夫婦の1日あたり家事・育児関連時間
妻：7時間30分 夫：1時間22分

● 育児休業取得率
女性：82.2% 男性：6.16%

● 介護・看護を理由に離職した人
女性：8万人 男性：2万人

※出典：『ひとりひとりが幸せな社会のために』
(令和元年版データ)発行・編集：内閣府

るようになるには、まず、女性の負担が大きい家事・育児等への男性の参画促進が重要であり、それを実現するために、男性の長時間労働の解消を図ることが必要です。

さらに、仕事と家庭生活の両立支援制度を利用しにくい職場風土の改善や、柔軟な働き方の制度の導入など、企業や経営者の積極的な取組や意識改革も不可欠であり、そうすることで、家庭生活を優先したいと考えている多くの男性たちの希望を実現できると考えられています。

新型コロナウイルス感染症の影響が、私たちの生活や働き方を大きく変えようとしています。性別や年齢にかかわらず、誰もが実感できるワーク・ライフ・バランス社会について、改めて考えてみてはいかがでしょうか。

「はばたきプラン21」における取組の方向性

- ① ワーク・ライフ・バランスに関する意識啓発
- ② ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた企業等への支援
- ③ 出産・育児・介護に対する職場の理解の促進

台東区ワーク・ライフ・バランス推進企業認定制度

令和元年度認定企業

認定分野 ①子育て支援 ②働きやすい職場づくり ③介護支援

認定企業(新規6社)		認定企業(更新7社)	
株式会社アプリケーションスペース	②	株式会社コマキ楽器	①②
株式会社トーキョーバイク	①②	育栄建設株式会社	②
株式会社藤和商会	②	株式会社ビジネス情報テクニカルシステムズ	①②③
フジトウ商事株式会社	②	アミエージェンシー社会保険労務士事務所	②
株式会社ナチュラル	①②	株式会社日本システムブレーンズ	②
株式会社金太郎鉛本店	②	株式会社エス・ティー・シー	②
		株式会社共同紙販ホールディングス	①②③

台東区では、ワーク・ライフ・バランスに取り組む中小企業等を認定し、その取組を応援する「台東区ワーク・ライフ・バランス推進企業認定制度」を実施しています。

台東区立男女平等推進プラザ「はばたき21」は

「誰もが自分らしく生きる」
男女平等社会を実現するための拠点施設です。

区民との 協働・連携

- ◇男女平等推進フォーラム、コミュニティ・カフェ、情報誌編集における区民との企画・運営
- ◇「区民学習活動支援事業」「地域のチカラ講座」の実施
- ◇男女平等推進フォーラムなどにおける登録団体との連携

男女平等参画に 関する意識啓発

- ◇男女平等参画を推進するための講座の開催
- ◇情報誌「はばたき21 通信」による情報提供
- ◇情報コーナーでの男女平等に関する図書や行政資料等の収集・閲覧・貸出
- ◇パネル展の実施(男女共同参画週間、DV防止など)

相談事業

- ◇ここと生かたなんでも相談
- ◇女性弁護士による法律相談

2001年9月に開設された男女平等推進プラザは、男女平等参画に関する幅広い事業に取り組んできました。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響により、従来通りの事業の実施が難しい状況になっております。

しかし、男女平等参画を推進する拠点施設として、これからも区民の皆さまとともに歩み続けます。



昨年、女性に対する暴力根絶のシンボルであるパープルリボンにちなんだ紫の小物をコミュニティ・カフェの参加者の方々が作ってくださり、プラザ内に展示しました。

「はばたき21」情報コーナーおすすめ図書案内

SDGsを学ぶ

国際開発・国際協力入門

高柳彰夫・大橋正明編／法律文化社



SDGs(持続可能な開発目標)とは何か、今日の世界にどのような意義を持つのか。目標設定と実現課題を第一線の研究者・実務家が掘りさげて解説する。

女性のいない民主主義

前田健太郎著／岩波書店



男性に政治権力が集中している日本。何が女性を政治から締めだしてきたのか。女性が極端に少ない日本の政治は民主主義と呼べるのか。ジェンダーの視点に基づく政治学の入門書。

「労働」から学ぶジェンダー論

Society5.0でのライフスタイルを考える

乙部由子著／ミネルヴァ書房



「労働」をキーワードとして、現代女性の生活状況を男女共同参画社会・キャリア・家族・育児・介護等をめぐる法制度・事例を踏まえ解説。また、女性の現状を分析し、近未来の家族像と働き方を展望する。

「台東区男女平等推進行動計画 はばたきプラン21」

スタート
しました!

計画の趣旨

すべての人々が、性別にかかわらず、個人として尊重され、喜びと責任を分かち合い、多様な生き方が選択できる男女平等社会の実現を目指して策定されたのが、「台東区男女平等推進行動計画 はばたきプラン21」です。

台東区では、2015年1月に「東京都台東区男女平等推進基本条例」を施行し、同年3月に策定した第4次行動計画のもと、区の施策を総合

的・計画的に進めてきました。長年の様々な取組により、男女平等参画は前進してきましたが、区の基本構想に掲げる「世界に輝くひと まちたいとう」を実現するためには、今なお残されている固定的な性別役割分担意識や、それに基づく社会的慣行等を解消し、男女平等参画の取組をより一層推進していく必要があります。

国の法制度等の動向や社会情勢の変化、台東区の現状等をふまえて策定した第5次となるあらたな行動計画には、

現行計画からの課題を引き継ぎつつ、性的指向・性自認に対する理解の促進など、今日的な課題を盛り込みました。また、本計画に、国による「SDGs(持続可能な開発目標)実施指針」に関連する取組を定め、計画の着実な推進を図ります。

計画期間を5年間とし、今後5年間に取り組むべき課題について、基本目標と施策を明らかにするとともに、評価指標を設定し、全庁的に取組を推進していきます。

〈台東区基本構想に掲げる将来像〉

世界に輝くひと まちたいとう

計画の基本理念

多様性を認め合い、
誰もが自分らしく生きるための
男女平等社会の実現

基本目標1 あらゆる分野への男女平等参画の推進

- 施策① 男女平等意識の形成
- 施策② 意思決定過程への男女平等参画の推進
- 施策③ 男女平等参画の視点に立った防災・復興体制の確立

台東区女性活躍推進計画

基本目標2 職業生活における女性の活躍推進

- 施策④ 女性の就業・登用・起業の機会拡大
- 施策⑤ ワーク・ライフ・バランスの実現
- 施策⑥ 子育て世代・介護者への支援

基本目標3 誰もが安心して暮らせる環境の整備

台東区配偶者暴力防止基本計画

- 施策⑦ 配偶者等からの暴力の防止及び被害者保護
- 施策⑧ あらゆる暴力の防止への取組
- 施策⑨ 生涯を通じた男女の健康支援
- 施策⑩ 困難を抱える方への支援の充実

計画推進の基盤

ジェンダーの視点による区政運営の推進

- 1 男女平等参画の総合的推進
- 2 男女平等推進プラザの充実
- 3 国・東京都・NPO等との連携

「はばたきプラン21」の閲覧・配布(概要版)場所

- 台東区役所9階6番窓口 人権・男女共同参画課
- 生涯学習センター4階 男女平等推進プラザ
- 台東区役所3階7番窓口 区政情報コーナー(閲覧のみ)
- 区のホームページにも掲載しています。

Q

エス・ディー・ジョーズ

SDGs(持続可能な開発目標)とは

SDGsは、2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された国際目標。

「誰一人取り残さない」をスローガンに、経済・社会・環境分野にまたがる17のゴール(目標)と169のターゲットから構成されており、目標5に「ジェンダー平等の実現と女性・少女のエンパワメント」が掲げられている。

国は、「SDGs実施推進本部」を設置し、ジェンダー平等の実現とジェンダー主流化が、SDGsのすべての目標の実現に不可欠であることなどをとりこんだ実施指針を策定している。

※ジェンダー主流化…あらゆる分野でのジェンダー平等を達成するため、全ての政策、施策及び事業について、ジェンダーの視点を取り込むこと。



5 ジェンダー平等を
実現しよう

たいとうのキラッとさん紹介 番外編

ひぐち いちよう
樋口 一葉

明治5年(1872)～明治29年(1896)



毎回、様々な分野で活動する区内の女性たちを紹介している「たいとうのキラッとさん」ですが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、今回は取材を見合わせました。そこで番外編として、女性の社会進出のさきがけである台東区ゆかりの文学者、樋口一葉を紹介します。

5千円札の肖像でお馴染みの樋口一葉(本名・奈津)は、明治5年現在の千代田区に生まれました。幼少の頃から読書好きで成績優秀でしたが、「女子に学問は不要」という母の考えから、進学を断念。しかし、もっと勉強させたいという父の意向により、上流階級の子が通う歌塾・萩の舎へ入門することになりました。

17歳の時に父親が他界し、戸主として一家を支えなくてはなくなりましたが、当時は女性がお金を稼ぐ手段として針仕事や洗濯ぐらいしかありません。そんな時、萩の舎の先輩が小説を出版して高額

の原稿料を得たと知った一葉は、小説家として家族の生活を支えることを思いついたのでした。

しかし、小説家として作品を発表しても思うように収入が得られず、借金は増えるばかり。生活に行き詰まった一葉は小説を書くことをやめ、商売で生計を立てることにしました。こうして店を構える場所としてたどり着いたのが下谷龍泉寺町(現在の台東区竜泉)であり、ここでの経験を素材とした「たけくらべ」には、当時の人々の暮らしぶりや心情がいまも描き出されています。

一時は商売と内職で生活を立て直しましたが、他店の開業でまたもや暮らしは困窮。店をたたみ、再び小説家として生きることを決意した一葉は、その後次々と作品を発表し、その評価はゆるがぬものとなっていきます。しかし、病に侵され、24歳という若さでその生涯を閉じました。

いつもお金に困っていた一葉が、お札の肖像画に選ばれるなんて、本人も驚いているかもしれません。

女性が生計をたてることそのものが難しかった男尊女卑の時代に、小説家としての道を選び、自分らしく生涯を駆け抜けていった樋口一葉。まさに、「明治時代のキラッとさん」として、作品とともにその生涯をも後世に伝えていきたい女性です。



小説「たけくらべ」ゆかりの地として台東区竜泉に設立された一葉記念館
台東区竜泉3-18-4 TEL 03-3873-0004
<http://www.taitocity.net/zaidan/ichiyo>

「令和2年度男女平等推進フォーラム」開催中止のお知らせ

9月26日(土)・27日(日)に開催を予定しておりました男女平等推進フォーラムですが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、開催を中止させていただくこととなりました。ご来場を予定されていた皆様には大変申し訳ございませんが、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

編集・発行：台東区立男女平等推進プラザ「はばたき21」

場 所：台東区西浅草3-25-16(台東区生涯学習センター 4階)

電 話：03-5246-5816 ※日曜・休館日以外の午前9時～午後5時

開館時間：午前9時～午後10時

休館日：第1・第3・第5月曜日(祝日にあたる場合はその翌平日)
年末年始(12月29日～1月3日)

ホームページ
はこちら→



はばたき21

検索

再生紙を使用しています。

